

NEWS RELEASE

報道関係者各位

2026年9月15日

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

—GREEN×EXPO 2027の開催まであと半年—

公募したテーマ館・園芸文化館・屋内出展施設の愛称が決定

テーマ館展示のゾーン展開を発表

プラチナパートナー「日本生命」のテーマ館プロジェクト協賛概要を発表

園芸文化館の新たな展示イメージ図を発表

毎月19日は公式マスコットキャラクター「トゥンクトウンクの日」に

GREEN×EXPO協会（正式名称:公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会、会長:筒井義信、所在地:横浜市中区）は、GREEN×EXPO 2027の開催半年前を迎えるにあたり、2026年9月15日(火)に記者発表会を開催し、最新の準備状況や見どころ等をお知らせいたします。



このたび、公募を行っていた本博覧会の主要な展示施設の愛称がテーマ館「ねっこ」、園芸文化館「いろはにわ」、屋内出展施設「はなめぐり」と決定しました。テーマ館については、展示・体験内容に関しても新たな見どころを発表いたします。園芸文化館については、新たな展示イメージ図「江戸の植木屋・花屋敷」を発表いたします。

多くのパートナーの皆さまにもGREEN×EXPO 2027にご参画いただき、開催に向けた準備を進めています。また、新たに毎月19日を公式マスコットキャラクター「トゥンクトウンクの日」と決定、開幕前から開催期間中にかけてSNSを起点にトゥンクトウンクの魅力やグリーンエクスポに関する情報を発信し、開催機運を高めていきます。

■展示施設の愛称

本博覧会のテーマを発信する主要な施設として、協会が主体的に運営する3つの展示施設「テーマ館」、「園芸文化館」、「屋内出展施設」について、広く一般から募集していた愛称が決定しました。

全国から3施設合計で3,611件のご応募をいただき、厳正な審査の結果、最優秀作品を以下のとおり決定しました。決定した愛称は、今後、会場マップや案内サイン、各種広報物等で活用し、来場者の皆さまに親しんでいただける施設を目指してまいります。

●テーマ館「ねっこ」（英：Theme Pavilion “NEKKO”）



「全ての生命はつながっている。植物を中心に」というコンセプトから、植物の「根っこ」を連想。根っこは植物の土台・根源であり、テーマ館が植物の形態や構造の合理性を建築に応用している点からも着想を得た愛称。

（最優秀作品受賞者 ハンドルネーム：ゆむ）

●園芸文化館「いろはにわ」（英：Horticultural Pavilion “IROHA-GARDEN”）



日本の伝統的な「いろは」の響きに、伝統園芸の「庭（にわ）」を掛け合わせた愛称。江戸時代から続く日本独自の園芸文化の歴史や美意識の「いろは（基本と奥深さ）」を、大地と調和する美しい雁行形式の建築の中で、誰もが親しみながら学べる場をイメージ。

（最優秀作品受賞者 ハンドルネーム：やかわ）

●屋内出展施設「はなめぐり」（英：Indoor Exhibition Facility “HANAMEGURI”）

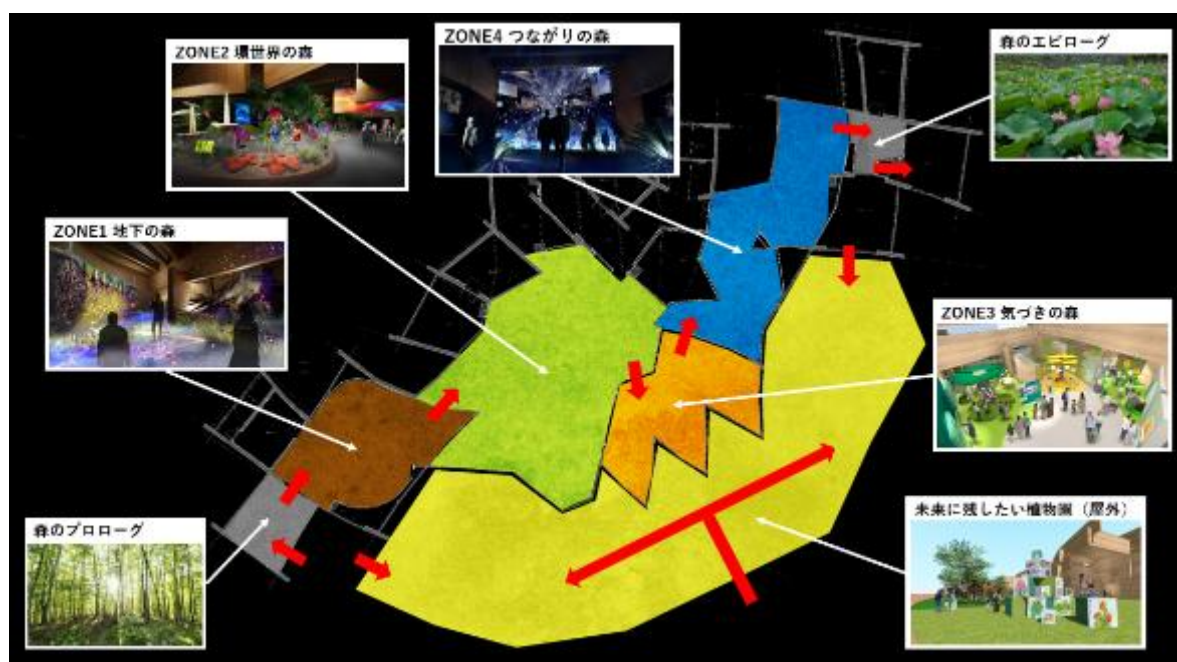


世界中から集まる花や緑、そして季節ごとに入れ替わる展示との出会いを表現。訪れるたびに新しい景色や発見があり、「めぐる」という言葉には花の循環、人の交流、未来へのつながりという意味を込めている。

（最優秀作品受賞者 ハンドルネーム：横浜の双子ママ）

■テーマ館「ねっこ」 展示ゾーン展開概要

主催者展示であるテーマ館「ねっこ」では、「全ての生命はつながっている。植物を中心に」をコンセプトに、植物の知られざる能力と生命同士の複雑で巧妙なつながりを、最新の科学的な知見をベースに、誰もが、楽しく、感動を体感できるアート&エンターテインメントな演出で、6つのゾーン展開にてお届けしていきます。各ゾーンの概要は以下の通りとなります。



■森のプロローグ

入口を入った最初のゾーン「森のプロローグ」では、コンセプトムービーで来場者をお迎えし、これから始まる展示のテーマと方向性を伝えて期待感を高めます。



■ZONE 1 地下の森

人間には見えない地下の世界で繰り広げられている、植物の根と菌類のネットワークをプロジェクションマッピングで表現します。そして、東日本大震災の津波に耐えた陸前高田市の「奇跡の一本松」、その実物の根をお借りし、演出の中に組み入れて展示します。



■ZONE 2 環世界の森

植物が他の生き物とどのような情報のやり取りをしているのか、人間の目には捉えることのできない「見えないメッセージ」を可視化します。

菌類と植物・昆虫と植物の関係、空気中に漂う匂いや化学物質、昆虫の目であればわかる花の模様など、本物の植物やレプリカ、映像を交えて伝えます。

植物が音に反応したり、光や匂いを感じたりしている姿を、人間の感覚器官や時間感覚と比較しながら、アニメーションや特殊撮影映像でお届けします。



■ZONE 3 気づきの森

テーマは、暮らしに身近な植物にも、多くの危機が迫っていることに気づいてもらう展示です。来場者一人ひとりに、実際に触れていただく展示体験を通じて、普段見聞きしている植物の現状をお伝えし、環境問題がどのような影響を与えているか、気づきの機会を提供します。

提供：日本生命保険相互会社



■ZONE 4 つながりの森

「植物と人のつながり」を紹介します。
人類は、衣・食・住だけでなく、船や橋と言った構造物や、健康に関する薬や癒し、様々な恩恵を植物から受けています。今、地球環境の限界が迫る中で、改めて植物の力を感じ取り、よりよい社会、来館者の行動変容を目指します。ゾーンの最後に、皆さまがシードペーパーから育てていただいた草花の投稿写真で創られた「きぼうの樹」をシンボルとして大画面で展示します。



■森のエピローグ

ヒトの一生よりはるかに長い時間軸で生きる植物、2,000年間眠っていたハスのタネから、来館者の皆様へラストメッセージをお届けします。

●プラチナパートナー「日本生命」のテーマ館プロジェクト協賛概要

プラチナパートナーである「日本生命」にテーマ館プロジェクト協賛として、『テーマ館「ねっこ」 ZONE3 気づきの森』および『テーマ館「ねっこ」屋外エリアに「未来に残したい植物園』の2つのコンテンツをご提供いただきます。コンテンツ内容は今回初めて発表するものです。

日本生命提供のコンテンツは、植物を起点に、地球環境と人の生活・健康のつながりを体験として学んでいただき、来場者一人ひとりが環境課題を自分ごと化し、行動変容の一步を踏み出すきっかけづくりを目指しています。



提供：日本生命保険相互会社

テーマ館「ねっこ」における屋内展示の一部ZONE3では、「気づきの森」と題し、3つのエリアで構成する体験展示を行います。国内で身近に見られる植物のうち絶滅などの危機に直面しているものを中心に切り上げ、その意外な状況を、興味をひく言葉や、見て・触れてみたくなる体験と共に発信します。例えば、イチヨウは古代から存在する植物ですが、そのほとんどが街でよく見かけるものの、栽培されたもので、野生のものは絶滅危惧種とされています。こうした知られざる実態を、落ち葉に混ざった古代をイメージした葉や、葉で隠された解説などによりメッセージとして届けます。

来場者の知識欲を引き出し、自発的に情報と向き合いたくなる仕掛けを通じて、植物の現状を理解から関心へつなげます。



提供：日本生命保険相互会社

屋外エリアでは、「未来に残したい植物園」と題して絶滅の危機に直面している植物など、さまざまな植物を紹介する体験型展示を展開します。植物ごとに異なる仕掛けの中に設置された二次元コードを来場者がスマートフォン等の端末で読み取ることで、その植物の置かれている状況やメッセージを受け取ることができます。

見つけた植物の情報は図鑑として集められるため、スタンプラリーのような楽しさと、環境問題の学びを掛け合わせた体験を提供します。植物を、見つけて・知って・集める。そのような学びを重ねる体験を通して、環境問題を継続的に考え、行動するきっかけにつなげます。

■園芸文化館「いろはにわ」 「江戸の植木屋・花屋敷」 展示イメージ公開

主催者展示である園芸文化館「いろはにわ」では、江戸時代から受け継がれてきた日本独自の園芸の美意識と技を実物や体験を通して伝えます。展示は「知る」「感じる」「未来につなぐ」の3つのテーマで構成され、屋内外を巡りながら園芸文化の奥深さを体験できます。その中でも、「感じる」をテーマとした「江戸の植木屋・花屋敷」の展示イメージを公開します。

江戸の植木屋は、植物を生産・販売するだけでなく、新しい品種を見いだして増殖し、栽培法を伝え、園芸書を刊行し、庭を人々に公開する役割も担っていました。花屋敷は、生産、商い、観賞、行楽、交流といった複数の営みが一つの場所で結びついた、いわば江戸の園芸文化の拠点です。植物が人を集め、会話を生み、地域のにぎわいと季節感をつくります。

武士や町人といった身分に関係なく、人々が草花や樹木を楽しんだ場所、江戸の植木屋・花屋敷を再現し、江戸時代にタイムスリップしたかのような空間で、季節に応じて37品目の伝統園芸植物を入れ替え展示し、四季折々の花をめぐる江戸の人々の感性を体感していただきます。



江戸の植木屋・花屋敷の入口イメージ



園芸植物を展示しながら販売していた棚のイメージ



花屋敷の俯瞰イメージ

■毎月19日は「トゥンクトゥンクの日」

開幕半年前を迎える今月より、毎月19日を「トゥンクトゥンクの日」とし、SNSを起点にGREEN×EXPO 2027を盛り上げていきます。

「トゥンクトゥンク推し活キャンペーン」に寄せられた投稿画像をはじめ、開幕がもっと待ち遠しくなる情報や開催期間中も楽しんでいただける話題をお届けします。

毎月19日はトゥンクトゥンクと一緒にGREEN×EXPO 2027を楽しむ日にし、更なる機運醸成につなげてまいります。



■パートナー紹介

9月15日（火）に開催する開催半年前記者発表会にご登壇いただくパートナーの皆さまを紹介します。

<特別協力パートナー>

- ・BOAT RACE

<プロジェクト協賛>

- ・株式会社マクニカ：プラチナパートナー
- ・株式会社エイチ・アイ・エス：プラチナパートナー
- ・長田広告グループ：プラチナパートナー
- ・株式会社JTB：プラチナパートナー
- ・京急グループ：プラチナパートナー
- ・JR東日本グループ：プラチナパートナー
- ・日本航空株式会社：ゴールドパートナー
- ・東急グループ：ゴールドパートナー
- ・東海旅客鉄道株式会社：ゴールドパートナー
- ・日比谷花壇グループ：ゴールドパートナー

<プロジェクト協賛について>

「プロジェクト協賛」は、2027年国際園芸博覧会協会との対話を通して、GREEN×EXPO 2027のコンテンツを共創する協賛制度です。GREEN×EXPO 2027の世界観に御賛同いただいた企業・団体の皆さまの理念や技術等も盛り込んだコンテンツをご提供いたします。「プラチナパートナー」は5億円以上、「ゴールドパートナー」は3億円以上の大型プロジェクト協賛となります。詳しくはGREEN×EXPO 2027サイトをご覧ください。

<https://expo2027yokohama.or.jp/sponsorship/sponsorship>

本件に関するお問い合わせ先

GREEN×EXPO協会(公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会)

【愛称募集】推進部推進課 担当：田中：045-307-2068

【テーマ館展示】展示部展示課 担当：小川：045-307-2084

【園芸文化館展示】展示部展示課 担当：松本：045-307-2084

【プロジェクト協賛】事業部事業企画課 担当：瀧澤 Tel：045-307-2049

【トゥンクトゥンクの日に関すること】プロモーション企画部 担当：長谷川 Tel：045-307-2137

GREEN×EXPO 2027 開催概要

名 称	2027年国際園芸博覧会 (International Horticultural Expo 2027, Yokohama, Japan)
正 式 略 称	GREEN×EXPO 2027 (グリーンエクスポニーゼロナナ)
開 催 場 所	横浜市瀬谷区・旭区 (旧上瀬谷通信施設)
開 催 期 間	2027年3月19日(金)～ 2027年9月26日(日) 192日間
テ ー マ	幸せを創る明日の風景 ～Scenery of the Future for Happiness～
博覧会区域	約100ha(内、会場区域80ha)
ク ラ ス	A1(最上位) クラス(AIPH承認+BIE認定)
有料来場者数	1,000万人以上
公式サイト	https://expo2027yokohama.or.jp/



公式マスコットキャラクター
「トゥンクトゥンク」